

木材価格市況標準相場

令和8年8月6日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目 3

国産羽柄材 1

南洋材・中国材 1

北洋材・北欧材 1

(2) 値下げ品目 なし

○今月の市況動向

7月の商況については、木材・合板共に、荷動きは依然として低調との報告が多く、全体として力強さを欠く状況が続いた。一方、6月の新設住宅着工戸数は66,344戸となり、前年同月比18.6%増と3か月連続で前年を上回った。前年の法改正前の駆け込み需要の反動による影響も大きく、実需が本格的に回復したとは言い難いとの見方が一般的ではあるものの、足元の数字としては決して悪い水準ではない。こうした中、原木価格の高止まりに加え、物流費、光熱費、人件費など各種コストは依然として高水準で推移している。しかし、需要や荷動きが低調なことから、コスト上昇分を販売価格へ十分に転嫁することは難しく、収益面では引き続き厳しい状況が続いている。プレカット工場の7月の稼働状況についても、大手ビルダー及び大手ハウスメーカーからの受注が堅調で、一定の稼働率を維持しているが、価格競争が厳しく、価格対応の可否によって受注量に大きな差が生じている。

(国産材) 原木価格は、秋田・天龍三河方面も横ばいで落札されている。構造材については、メーカーの価格改定が進み、これまでの低価格帯の商品はほぼ一掃された状況となっている。一方、販売段階では需要の低迷から価格転嫁が十分に進んでいないものの、今後は進むと予想される。

(輸入材) 国内の米松製材メーカーでは、暑さの影響による生産調整から製材量が減少している。一方、スギ集成管柱などの国産材については引き合いが強く、増産の動きも見られる。また、競合する現地製材品についても、米松原木価格が依然として高値水準にあることから契約量は少なく、秋需に向けた在庫不足を懸念する声も聞かれた。こうした供給環境を背景に、これまで赤字販売を余儀なくされてきた問屋においても、今後は販売価格の見直しが進むものと予想される。値上げ品目となったメルクシーパイン集成材は、現地価格の上昇が続いており、地方を中心に、ローグレード材への引き合いが強まっている。北洋材では栈木が値上げ品目となった他、下級グレードの垂木についても品薄状態が続いており、需給は引き締まっている。一方、現地のオファー価格は依然として採算の合う水準ではなく、新規契約が難しい状況にあることから、今後も入荷量は低水準で推移するものと予想される。

(合板) 国内針葉樹合板では、懸念されていた接着剤不足による生産量の減少もなく、仮需に踊らされた側面が強い。輸入合板も国内同様、仮需の反動で引き合いも少なく、出荷も低調であった。しかしながら、現地価格は高値のままで、対日向けの価格への歩み寄りを感じられない。マレーシアの他国向けのシフトには注視が必要との声も聞かれた。